

# 品川支部

令和七年3月1日発行  
〒141-0022  
品川区東五反田1-8-5  
TEL 3442-7075

## 三月

天理教品川支部（豊英分教会内） 発行責任者 栗原薫 編集 支部編集部

### 誰もがおちば帰り 三月は学生・生徒で賑わい

三月は学生生徒修養会 大学の部4日(火)～8日(土)(4泊5日)から始まり、10日(月)～12日(水)は高校卒業生コースと続きます

グループで学び、遊び、楽しく仲間と過ごすまたとない機会です  
仕上げは春の学生おちばがえり3月28日(金)ですが、27日の前夜祭では、各地の自慢の模擬店、舞台上でのパフォーマンスで大盛り上がり誰でもすぐに皆仲間になってしまいます

おちばで最高に楽しい時間を過ごしましょう



春の学生おちば帰り



大学の部で学び



高校卒業での集まり

### ☆教務支庁からのお知らせ

・学生担当委員会より

春のおちば帰り  
三月二十六日から二十九日まで  
東京教区学生会主催で行われます  
百四十年祭まで一年を切り今年はおちばに多くの方のお帰りを期待しています

・支部例会  
日徳實分教会会場  
三月三十日(日)十一時から  
※二頁に詳細掲載  
百四十年祭教区活動「みんなでのきしん」  
神名流し、ゴミ拾いひのきしん  
一日大井町駅前にて十時から  
大井在宅介護センターひのきしん  
二十八日九時半から  
・教区ひのきしん  
今月は五日・十七日日本橋組です  
二回ありますので宜しくお願いします

### ☆支部行事のお知らせ

・支部幹事会  
三月九日(日)午後六時～  
都南分教会にて

### 立教百八十八年役員改選

各役職の方の就任から三年を経て  
役員改選の時期になりました  
現役員は三月末での交代ですが  
東京教区は四月四日に創立記念祭が行われますのでその日までお勤め頂きます  
尚、東京教区の教区長入江先生にはそのまま来期もお勤め頂くとのことです  
品川支部でも支部長職を始め役職の交代があります  
現在は本大崎分教会長の三輪先生にお勤め頂いておりますが次期支部長には南泰分教会長の宮坂先生を  
支部幹事会から推薦致しているところ  
であります 副支部長には水豊田分教会長の石田先生に続けてお勤め頂ける様申請しております

### 婦人会から

先月十四日には品川支部婦人会は大崎駅近くの中華店で本任大教会長夫人にも参加頂き今年の支部が活発に楽しく活動出来ますようをテーマに初例会が催されました  
支部主任からは役に立ち楽しい企画を致しますので是非多数の方の参加をというコトでした

拠点教会	5日号	12日号	19日号	26日号
日本橋	直送	休刊	手配り	手配り
本荏	手配り	休刊	手配り	手配り
南泰	手配り	休刊	手配り	直送
三ツ木	手配り	休刊	直送	直送
水豊田	手配り	休刊	手配り	手配り

時報手配り三月予定

・時報の発行は通常  
月三回となっています

# 品川支部例会

## 令和七年三月三十日 (日)

### 11時開始

## 場所 日徳實分教会

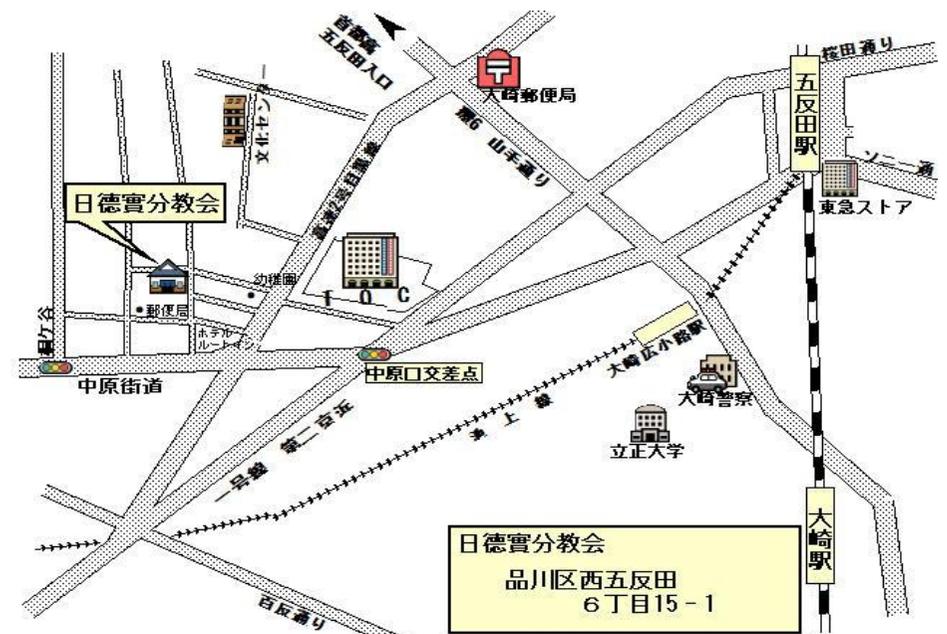
(品川区西五反田六丁目十五の一)

## 内容 座りづとめ よろづよ八首 三下目

### 東京教区、支部連絡事項 当該岡部教会長挨拶

### 昼食の用意頂いてます

### \*各教会の方のほかどなたでも (白足袋ハッピー着用)



にをいがけ・  
おたすけの思い出



十年程前、私は天理教専修科を卒業し、詰所で三年間のお礼づとめをつとめることになりました。勤務が始まると御用をするのに自動車免許が無ければ使い物にならないと、当時一番費用の安かった静岡の合宿免許センターに行くことになりました。安いからと言って施設が古いわけではなく、ただ寮が相部屋になるとのことでした。入寮者は若者が多く、期間は半月程あったと思います。入寮者は日経つにつれ、それぞれの癖性分が出てきて、一部の素行の悪いメンバーのせいで、一堂に集まってお叱りを受けられることもありましたが、私の同室の子は不良メンバーの一人で、殆ど部屋に帰らず、私は一人部屋状態でした。ある時、寮で仲良くなった青年がおりました。

その青年は同室が不良メンバーで、悩んでおりました。「よかったら部屋を使っていよ」と伝えると、毎日のように部屋を訪ねてくるようになり、お互いに親しく話すうちに、にをいがけの意味を込め、自分が天理に住んでいて、天理教を信仰していることを伝えました。幸いにもその青年も、親がキリスト教の信者で信仰に対する抵抗も無さそうでした。教習所での日々を過ごすにつれ、その青年とは天理教の教えや、いつしか、みかぐらうたのCDまで聞いてもらっておりました。合宿免許センターでの生活を終え、その青年とも離れて数ヶ月、その青年から連絡がありました。「親と一緒に住めない事情ができたので、どうにか助けてもらえないか」とのことでした。

私は当時詰所におりましたので、最初は詰所に住むように伝えようと思いましたが、父と相談の上、日徳の教会に住み込んでもらうことになりました。その青年は医学系の大学進学を目指す浪人生で、毎日私の母が弁当を作っては図書館に通い勉強をしておりました。祭典日になると午前中の神名流しで旗を持ち先頭を歩いてくれたり、おつとめでは直ぐに鳴物を覚えて、奉仕者としてつとめてくれました。私は詰所におりましたので、たまに電話がかかってきては、悩み事を聞いたり教えを伝えたりさせていたいただきました。また、日徳に在る間に列席を運んでくれ、よふぼくに

私は詰所におり、どうすることも連絡も取れず、とても落ち込みましたが、去るもの追わずで、一時でもその青年のたすけになれたので良かったと思っております。諸上級教会に在る頃は、にをいがけがかかった方が数名おりましたが、日徳の教会をお預かりしてからは全くそうはいかず、最近だと去年初参拝者が久しぶりにご守護頂けたくらいです。にをいがけ・おたすけ、それから丹精の難しさを感じ、今日この頃です。にをいがけがかかるのも、そして教会に繋がってくださることも、神様の思惑の世界だともおわせて頂きます。年祭の風を頂き、共に教祖のひながたの道を歩む方をご守護頂くべく、三年千日仕上げの年も、勇んでつとめさせていただきます。

日徳實分教会長  
岡部義徳